

切り離し回収システムでバイカルアザラシ調査
 バイカルアザラシは昼夜で異なる餌を異なる方法で捕らえる
 2004年8月10日 報告者 東京大学海洋研究所 渡辺佑基

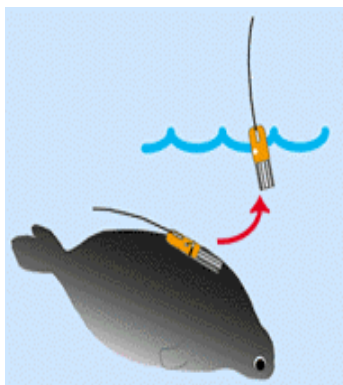


図1. 切り離しによるデータロガー回収システムの概念図

データ回収のための再捕獲ができない動物（＝警戒心が強い動物）からも行動データをとるため、切り離しによるデータロガー回収システムを開発した(図1)。このシステムでは、切り離し装置がタイマーで動物の体からデータロガーを切り離す。切り離されたデータロガーはVHF電波を利用して探出し回収することができる。このシステムを用いることにより、ロシアのバイカル湖に生息するバイカルアザラシの詳細な行動データを初めて得ることができた(図2)。

バイカルアザラシは昼夜で異なる餌を異なる方法で捕らえていることが明らかになった。昼間、彼らは水中から明るい水面を見上げて魚のシルエットを視覚によって捉え、ダッシュして捕まえていた(図3)。一方夜間には小さな甲殻類の群れの中に入ってスピードを落とし、おそらくヒゲによる触覚を使ってそれらを捕食していた。夜間に見られた潜水深度の規則的な変化は、餌である甲殻類の日周鉛直移動に合わせてアザラシが潜水深度を変えていることを示す。

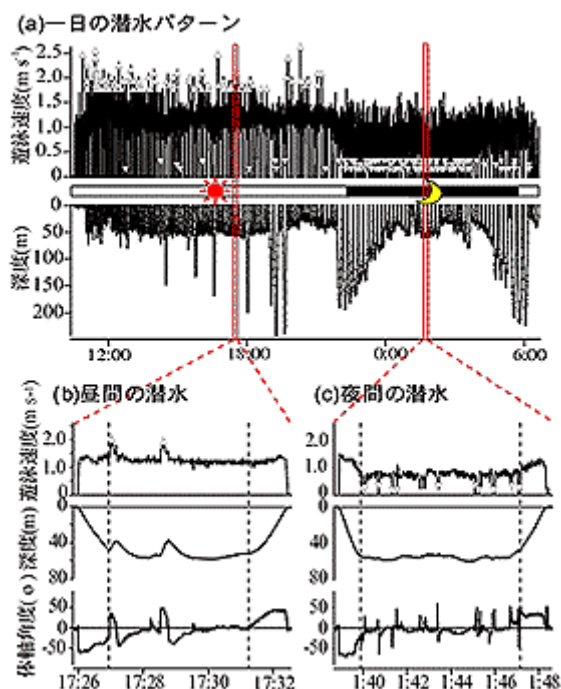


図2. バイカルアザラシの潜水行動。遊泳速度グラフ上の△と▽はそれぞれ潜水に見られた加速と減速の動きを示し、これらはともに餌を追いかける動きだと考えられる。体軸角度が正のときは動物が上（水面方向）を向いており、負のときは下（湖底方向）を向いている

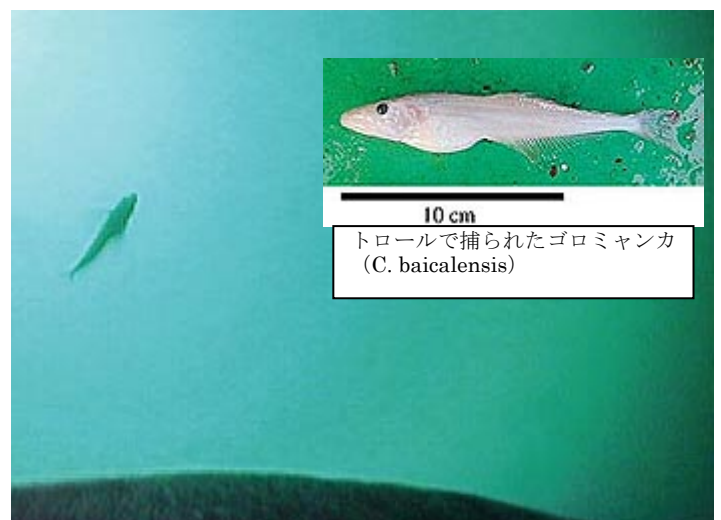


図3. アザラシに取り付けられた小型水中カメラによる画像。昼間の潜水中に撮られた（深度54m）。明るい水面をバックにして餌の魚「ゴロミヤンカ」(Comephorus sp.)を追いかけ、視覚に頼っている証拠である。画像手前の黒い影はアザラシの背中

出展: Watanabe, Y., Baranov, E.A., Sato, K., Naito, Y., Miyazaki, N. (2004)

Foraging tactics of Baikal seals differ between day and night. *Marine Ecology Progress Series* 279:283-289.